

渡辺利夫先生が歴史認識問題の本質を明らかに

本誌編集部

歴史認識問題

昨年十二月十九日、本会は拓殖大学の「後藤新平・新渡戸稲造記念講堂」において十三回目となる「日台共栄の夕べ」を開催した。

昨年は戦後七十年という節目の年に当たり、台湾関係者には特に、安倍総理が七月の参議院平和安全法制に関する特別委員会において台湾を「重要なパートナーであり、大切な友人」と答弁し、また八月に発表した「談話」で台湾を中国と並列したことが強い印象を残したものと思われる。

七月には李登輝元総統が国会議員による初招聘により、二年続けて七度目の来日を果たして衆議院第一議員会館

で歴史を画する講演会を実現、十月の蔡英文・民進党主席の来日も総統選を勝利に導く実り豊かなものとなった。

このような中で催された「日台共栄の夕べ」の講演は、拓殖大学学事顧問で前総長の渡辺利夫先生による「戦後七十年とは何であったか」。

江成雅子監事による司会の下、小田村四郎会長の開会挨拶に引き続き、金美齢先生が来賓として登壇。渡辺先生の品格と知性がとても好きだから講演を聞きに来た旨を述べられて大喝采を浴び、いよいよ第一部の講演会。

渡辺先生は、本会副会長だった故岡崎久彦・岡崎研究所理事長が提起された歪められた戦後史をテーマに、日本における歴史認識問題の発端は一九八

も望める九階の展望ラウンジを会場に、薄井保則監事の司会で進められ、川村純彦・副会長が開会挨拶。

続いて、来賓として小池百合子・衆議院議員、前交流協会台北事務所代表の池田維氏、ノンフィクション作家の門田隆将氏が挨拶。

小池議員は八月に訪台して李元総統や蔡英文氏にお会いしてきたことを披露。池田氏は歴史認識問題が起こる前の外務省中国課長だったとき、中国要人と会ってもそのような問題は一切出



本会催しへ初めて参加し大忘年会で乾杯の発声をしていただいた頭山満翁令孫の頭山興助氏（2015年12月19日、拓殖大学展望ラウンジ）



後藤新平翁令孫の河崎裕和氏にはお楽しみ抽選会のクジ引き役も（写真左が漫画家のさちみりほさん。2015年12月19日、拓殖大学展望ラウンジ）

なかつたとして、渡辺先生の講演に感銘した旨を述べた。昨年のこの会で講演していたいただいた門田氏は、八月に鶴巻鼻の潮音寺で慰霊祭を執り行ったことを披露しつつ、現在手掛けている二二八事件で犠牲となった湯徳章弁護士

の五代百年の物語を通じ、日台がいかに大切な関係にあるかを明らかにする旨などを述べた。

乾杯の発声は、本会が進める日台関係基本法の制定にお力添えいただいている呉竹会・アジアフォーラム会長である河崎裕和氏にお願いした。河崎氏は「渡辺先生は、戦後七十年という節目の年に、歴史認識問題の本質を明らかにし、我々の世代に何を残すべきかを問いかけた。その問いに答える責任は、我々にはある。渡辺先生の講演は、我々の世代に大きな教訓を与えた。我々は、渡辺先生の遺志を継ぎ、歴史認識問題の本質を明らかにし、我々の世代に何を残すべきかを問いかける責任を負う。渡辺先生の講演は、我々の世代に大きな教訓を与えた。我々は、渡辺先生の遺志を継ぎ、歴史認識問題の本質を明らかにし、我々の世代に何を残すべきかを問いかける責任を負う。」と述べた。

続いて、杉本拓朗・青年部長が進行役、漫画家のさちみりほさんや台湾人留学生などがプレゼンターとなり、恒例のお楽しみ抽選会が行われた。渡辺利夫先生や金美齢先生などがクジを引き、一喜一憂、当たるや大きな歓声や拍手がわき起こる大賑わい。終了の時間が迫る中、辻井正房・常務理事が閉会挨拶で感謝の念を表し、最後に小田村四郎会長が拓殖大学総長のときに秘書をつとめた服部朋秋理事が恒例の万歳三唱で締めくくり、字義どおり盛会裡に終えた。



戦後70年に縁して歴史認識問題について講演される渡辺利夫先生（2015年12月19日、拓殖大学・後藤新平・新渡戸稲造記念講堂）

七年六月の歴史教科書誤報問題にあってと指摘。その後起こった靖國問題や軍慰安婦問題も、中国や韓国が作り出した問題ではなく「メイド・イン・ジャパン」すなわち日台問題であり、仕掛けられた戦争だと別扱された。質疑応答の後、黄文雄副会長が沖縄や台湾の戦後七十年問題に言及して閉会挨拶を述べ、次の大忘年会へ。

富士山を望むラウンジで忘年会

大忘年会は富士山や東京スカイツリ

頭山満翁令孫の頭山興助氏。

乾杯後、懇親会に移りしばしの歓談を経て、各界からのスピーチ。柿沢未知・交流協会総務部長、河崎裕和・後藤新平翁令孫、王明理・台湾独立建国聯盟日本本部委員長、島村泰治・翻訳家、佐藤健一・高士神社神職、張淑玲・台北駐日経済文化代表処政務部長、永瀬祐見子・岸信夫衆議院議員秘書の各氏からそれぞれ挨拶いただいた。